

施策名

102 港湾利用の促進

施策の目的

四日市港の背後圏に立地する荷主企業の多くが四日市港を利用している という状態にします。

施策の数値目標と達成状況

四日市港における外貿コンテナ貨物の取扱量	2009年度 実績値	156,524TEU	達成状況	B
	2010年度 目標値	184,000TEU		
	2010年度 実績値	170,561TEU		

達成状況の説明：目標が達成できなかったが、前年度より改善した

【目標項目の説明】

- ・四日市港において1年間（1月～12月）に取り扱った外貿コンテナ貨物の量。（20フィートコンテナに換算したコンテナの個数）

2010年度における取組と成果等

- 荷主企業に四日市港利用を促すために、県内はもとより、東京、大阪、中国（天津）など各地で四日市港セミナーを開催しました。また、東京で開催された「国際物流総合展 2010」に出展しました。
- セミナーの開催にあわせ、企業の個別訪問を行い、四日市港利用を直接働きかけました。
- 2008年度に「四日市港グリーン物流促進補助制度」を創設し、同制度を活用したモーダルシフトや最寄港利用の提案を行うなど、取扱貨物拡大に向けグリーン物流を意識したポートセールス活動を展開しました。2010年度は、背後圏に事業所等を有する荷主企業から、77件（モーダルシフト等事業0件、最寄港利用事業77件）の応募がありました。
- 四日市港の利便性について主に未利用荷主に説明し、利用を働きかけることを目的として、7月に滋賀県米原市において、10月に伊賀市において、それぞれ説明会を開催しました。
- セミナー開催や他機関の開催するイベントへの参画、企業経営層の来港時など様々な機会を捉え、四日市港利用の働きかけを行いました。

- これらの取組の結果、目標は達成できなかったものの、2010年の外貿コンテナ貨物取扱量は、初めて17万TEUを突破し過去最高を達成することができました。

これからの課題等

- 目標とする取扱量には、いまだ到達していないため、直接貨物を取り扱っている港運企業や船社との協力・連携の下、県、市や商工会議所などとも連携を図りながら、一層の集荷拡大を図っていくことが必要です。
- 最寄港利用が、環境面での貢献はもとより経済合理性も有することをアピールするなど、荷主企業の視点に立ったポートセールスをより積極的に展開していくことが必要です。
- 他県の港に比べて、県内貨物の四日市港利用率が低い状況（2008年28.8%）にあることから、県内貨物の集荷拡大を図っていく必要があります。また、多くの潜在貨物を有する滋賀県における集荷拡大にも積極的に取り組んでいく必要があります（滋賀県貨物の四日市港利用率：2008年9.5%）。

2011年度（以降）における取組

- 県内外において四日市港セミナーや四日市港説明会を県、市、商工会議所等と連携を図りながら実施するとともに企業の個別訪問などを戦略的に展開することにより、外貿コンテナ取扱貨物量の過去最高値の更新を目指します。【戦略計画 事業10101へ】
- 「四日市港利用グリーン物流促進補助制度」を引き続き利用促進のツールの一つと位置づけ、最寄港利用によるCO₂排出量削減やコスト削減への働きかけを行うことで、取扱貨物の拡大につなげるとともに、同制度の補助事業実施企業を丁寧にサポートする中で、得られた貨物情報や航路ニーズを分析し、新規航路誘致につなげていきます。【戦略計画 事業10101へ】
- 新たに貿易を始めようとする企業等、四日市港の潜在顧客に対し、積極的な情報提供を行うなど、個々の荷主企業のニーズに対応できるきめ細かなサービス提供に努めます。【戦略計画 事業10101へ】